

平成 22 年 5 月 18 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19520642

研究課題名(和文) 碑文学・図像学的見地からみた古代ギリシアの外交—儀礼としての外交構築

研究課題名(英文) Interstate Relations in Ancient Greece: Epigraphic and Iconographical Studies

研究代表者 師尾 晶子 (MOROO AKIKO)

千葉商科大学・商経学部・教授

研究者番号： 10296329

研究代表者の専門分野：古代ギリシア史

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：ギリシア史、外交、顕彰碑、奉納碑、アテナイ、碑文、アクロポリス、アゴラ

## 1. 研究計画の概要

(1) 本研究は、2004年～2006年度の科研費補助金による研究課題「古代ギリシアのポリスにおける碑文慣習文化に関する研究」の継続研究である。本研究では、古代ギリシアの対外関係の構築に碑文文化が果たした役割について、碑文のもつ儀礼性と実用性双方に注目しながら考察することを研究目的としている。

(2) 研究は以下の2つの柱から進められる。

① 外交に関わる碑文について、条約、同盟などのみならず、対外関係の構築に深くかかわった個人に対する顕彰とそれに対する被顕彰者の返礼とも言える奉納行為にも着目し、古代ギリシアの外交の儀礼的側面を明らかにする。ここでは通時的な視点をまず重要視する。

② デロス同盟研究を碑文文化という側面から捉えなおす。従来のデロス同盟研究では、古代ギリシアの政治史および経済史という側面からもっぱらすすめられてきた。通時的な研究から得られる知見をデロス同盟研究の中に取り入れることで、デロス同盟におけるポリス間の関係を相対化し、デロス同盟のあり方の特徴について再検討を行う。

(3) デロス同盟に関する碑文の成立年代についての通説は、近年大きな見直しを迫られている。研究者もこの問題に大きな関心を持ち、これまでに何本もの論文を発表してきた。デロス同盟関連碑文の成立年代の見直しが進めば、当然ながらアテナイの碑文文化のあ

り方についての見直しが迫られることにもなる。上述の研究を進める中で、この問題に立ち戻る必要性が最終的に予想されている。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 通時的な研究については、2007年のICANAS38 (International Congress of North African and Asian Studies 38, Ankara)、2008年の西洋史学会、2009年の歴史学研究会と西洋古典学会においてそれぞれ報告をする機会を得た。ほかにも複数の研究会において研究経過を報告してきた。ここではポリスによる顕彰および顕彰碑の建立と、被顕彰者による返礼としての奉納のあり方、および両者の関係について中心的に考察してきた。この問題については『記念碑と外交』(仮題) というタイトルで単著の執筆準備に入っている。

(2) デロス同盟研究の再検討については、2007年の第13回国際ギリシア・ラテン碑文学会 (Oxford) で報告を行い、さらに2010年5月にアテネで開催される「アテナイ帝国—新旧の問題」と題された研究会議において報告を行う予定である。また、研究レビューを執筆する準備をすすめている。このレビューは2010年秋に投稿の予定である。この中で、上述の研究計画の(3)の問題についても触れる予定である。

## 3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由) 自主的報告、依頼報告を含めて、当初の予定以上に大きな学会での報告が相次いだ。いずれも研究テーマに深くかかわる題

目での発表であったため、必然的に研究のスピードが速められることになった。その一方、与えられたテーマと期待に応えるために、当初の予定とは異なる手順で研究を進めることにもなった。いずれにせよ、これらの報告は順次公開されてきており、今後数年の間にさらにまとまった形で公開される予定である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 最終年度となる平成 22 年度は、上述のアテネでの研究会議における報告準備からはじまることになる。報告後は何らかの形で欧文にて成果を公開する予定である。

(2) 最終年度は論文、本の執筆、翻訳を中心に研究活動を行う。さしあたり、碑文研究に関するレビューおよび古代ギリシアの碑文文化と記念碑建立に関する論文の執筆、先述した単著の執筆、碑文からみたギリシア政治史に関する本の翻訳などをすすめることが予定されている。

(3) 研究年度内には間に合わないが、これまで積み重ねてきたデロス同盟の研究に関して、碑文文化に関する研究成果を盛り込んだ形で単著の形で公開する準備をすすめる。前研究課題下での研究成果、および 2007 年のオクスフォードでの報告、2010 年のアテネでの報告はその中核的位置を占めることになる。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① Akiko MOROO, How did People Enjoy Epigraphic Culture in Ancient Greece? Inscribing Names on Monuments, Proceedings for ICANAS 38 (Ankara) in processing
- ② 師尾 晶子「文字と社会」『西洋古典学研究』58 (2010) 95-102 (査読あり)
- ③ 師尾 晶子「古代ギリシアの石碑-関係性の記録と記憶の共有」『歴史学研究』859 (2009) 144-152 (査読あり)
- ④ 師尾 晶子「ポリスの連続性と展開」『西洋史学』234 (2009) 50-54、58-60 (査読あり)
- ⑤ Akiko MOROO, The Parthenon Inventories and Literate Aspects of the Athenian Society in the Fifth Century BCE, KODAI 13/14(2003/4) [2007] 61-72 (査読あり)

[学会発表] (計 6 件)

- ① Akiko MOROO, Three Mysterious Inscriptions concerning Erythrai, The Athenian Empire: Old and New Problems, Conference in Honour of H. B. Mattingly (21th May 2010, Athens Greece)
- ② 師尾 晶子「文字と社会」日本西洋古典学会第 60 回大会、2009 年 6 月 6 日、一橋大学
- ③ 師尾 晶子「古代ギリシアの石碑-関係性の記録と記憶の共有」2009 年度歴史学研究会大会、2009 年 5 月 24 日、中央大学
- ④ 師尾 晶子「ポリスの連続性と展開-エヴェルジェティスムの側面から」日本西洋史学会第 58 回大会古代史部会小シンポジウム、2008 年 5 月 10 日、島根大学
- ⑤ Akiko MOROO, A Reconstruction of 'the Regulations for Miletos', *JG I<sup>3</sup> 21*: Toward Dating to the 420s and Proposing its Historical Context, The 13th International Congress of Greek and Latin Epigraphy (4th September 2007, Oxford U.K.)

[図書] (計 0 件)